



他者への利他の心をもって周りを惹きつける存在に成長することが求心力を高めることにつながると考えました。そのためには、LOMメンバーの皆様が、周囲を思いやる行動の大切さを認識し、周囲を惹きつける存在になる必要がありました。しかしながら、例会に参加していただくための働きかけなど、身近で求心力を発揮する重要な機会を見逃し、求心力とは、周りを巻き込む力であると認識していただくことができませんでした。また例会の中身としては、事業報告の通り、打合せ不足で当初の目的と異なる例会となってしまう、基本方針を達成することはできませんでした。講演だけではなく、Zoomの機能に合わせたワークを取り入れることで、講演内容が当初の予定とずれても、基本方針の目的から逸脱することなく例会が実施できたと考えます。

また、地域に潜在する課題を的確に把握し、最適な手法を選択する術を身に着けることで、課題解決までの筋道を立てる素養を培うことが必要と考えました。そのために、まちの課題とその原因、あるべき姿を考え、誰を対象とした事業であるか明確に見つめる素養を身に付け、地域に必要とされる事業の開催へ結実させる力を高めることで、メンバー一人ひとりに事業構築の基礎を固める必要があると考え例会を開催いたしました。しかし、背景目的の構築よりも特定の事業内容についての解説の比重が多くなり、背景の構築について認識していただき、地域に潜在する課題を把握する方法について認識いただきましたが、課題を的確に把握する力を身に付けていただくことや課題解決までの道筋を立てる素養を培うところまで導くことはできませんでした。直前の6月例会の議案と設営に追われ、目的達成への手法も委員会メンバーで揉み切れず、審議可決となりました。委員会メンバーと協議を重ね、例会で伝えるべき内容を委員会メンバーと共有し、前倒しで企画を考えていかなければいけませんでした。さらに、委員会から資料を提示するだけではなく、LOMメンバーが行政の担当者や地域の課題の第一人者の方から直接ヒアリングする機会を設け、地域から必要とされる事業について考えていただくところまで例会内でおこなうことができれば、より深い学びになり、次年度以降につながる機会になったと考えます。

さらに、先輩諸兄の事績を見つめなおし、海部津島地域への想いを受け継ぐことで、地域のために愚直に行動できるLOMメンバーへとさせていただくため例会を開催いたしました。例会を通じて先輩諸兄の足跡を辿り、青年会議所とまちへかたむけられてきた想いを受け継ぐことができ、愚直に行動できるメンバーへとさせていただくことができたため基本方針を達成することができました。今回は海部津島青年会議所からの視点で歴史を辿りましたが、逆に津島市を中心とした行政や市民の目線から青年会議所がどういった活動をしてきたか、図書館や市役所、古い新聞などの外からの目線を確認することで海部津島青年会議所の先輩諸兄がこの地域で行ってきた活動を通じて足跡を辿る方法もあったかと思えます。このように、ひとつの視点からだけではなく、この組織を多角的にみることで新たな学びがあると考えましたので申し送りさせていただきます。

当委員会に4回の例会という非常に重要な機会を与えていただいたにもかかわらず、その重責をとても全うできたとは言い難い1年間でした。そのようになってしまったのは、予定者期間というスタート地点に立つまでの時点で、1年間を通じてLOMメンバーの意識をどのように変えるかというビジョンを委員会内で固めることができなかつたことに起因すると思います。そのような中でも、LOMメンバーの皆様は当委員会が設営した例会に積極的にご参加いただき、最後まで真剣に学びを得ようとしていただきました。目的達成への道筋がずれてしまうことが多く、ゴール地点までLOMメンバーを導くことができませんでしたが、当委員会の活動を通じて、LOMメンバーの

皆様が青年会議所の使命や魅力あるリーダー像、事業構築の基礎、そして先輩諸兄の事績と想いに触れるきっかけになり、次代の海部津島青年会議所を担う存在へ成長していただくための第一歩になったのではないかと考えます。以上を反省点及び申し送り事項とさせていただきます。

## 5. 委員長所見:

浅井理事長から委員長職をいただいたこの500日間、濃厚な日々を送ることができました。これまで無為に過ごしてきた人生の中で、この500日ほど1つのことを生み出すために考え行動したことはありませんでした。これほど充実した日々を送ることができたのは、委員長という重要な役職をいただけたからであると思います。こうした充実した日々を送ることで、複数の仕事を効率よくこなす力が身についたと思います。しかし、LOMメンバーがどのように成長し、そのためには何が必要であったかという点に向き合えず、理事会の進行や例会の設営においてLOMメンバーに多大なご迷惑をおかけする等、不甲斐ない1年を送ってしまいました。また、議案構築や例会設営に求められる内容のレベルが高く、議案提出日までに提出できないことが恒例となり、事務局長や副理事長をはじめ多くの方々に多大なご迷惑をおかけしてしまいました。多くの助言をいただいたにもかかわらず、私自身の心の弱さから、助言を聞き入れて実行に移すことができず、LOMメンバーへの協力の依頼も誠心誠意することができず、LOM全体にご迷惑をおかけすることとなりました。このような甘い考えと姿勢を変えることができなかったことは、最後まで委員長自身が委員会の足を引っ張ってしまった原因であったと考えます。これを払しょくするためには、議案構築や例会設営において、困難にあった時には、一人で殻にこもるのではなく、委員会メンバーを巻き込んで困っていることを伝え、共に困難に立ち向かい、様々な考え方を共有し、視野を広げることが必要だったと考えます。また、例会の出欠確認に関して、自分が委員であった時には、例会や事業には出席して当たり前、自分が出席していればいいという考えで今まで活動を行ってききましたが、委員長としてそれぞれ異なる価値観をもったLOMメンバーに出席を促すことは、これまでの自分の中の当たり前が全く通用せず、本当に難しいとことであると分かりました。そして、例会に参加いただくために、とりあえず来てほしいという安易なお願いではなく、LOMメンバーから見て例会に参加するに値するものであると理解をいただかなければ出席率を上げることが難しいことも学びました。また、当初例会の設営において、メンバーに何をやっていただくかという視点から例会構築を考えており、その結果メンバーに学びの少ない独り善がりな例会を開催してしまいました。しかし、メンバーのために何ができるか、何が必要かという視点に立って例会を構築する重要性に最後の最後で気付くことができ、自分がいかに驕っていたか実感いたしました。こういった姿勢を今後の青年会議所活動に生かし、謙虚に青年会議所活動に取り組んでまいりたいと思います。

最後に、担当副理事長には次年度もLOMの重役を担われ大変お忙しい身でありながら、時間を割いていただき、的確なアドバイスやご指摘を賜りました。心より感謝申し上げます。そして途中で退会という残念な結果となってしまいましたが、副委員長には、新型コロナウイルスという世の中全体を揺るがすような災厄下でありながら、例会設営や委員会設営などに奔走し、私が周りを見失っている中でも立派に委員会を下支えいただき、感謝の念に堪えません。また、委員会メンバーには、私が周りを見失ってしまったことで不安を与えてしまうことが多々ありましたが、最後まで

共に活動していただき大変感謝しております。

当委員会にご協力いただいたすべてのLOMメンバー、講師の皆様に感謝申し上げ、委員長所見とさせていただきます。

6. 収 支 決 算 :

収入の部				支出の部			
予 算		決 算		予 算		決 算	
事業費	0	事業費	0		0		0
合計	0	合計	0	合計	0	合計	0